

II-07  
5/2 消印

2022年4月28日

## 1年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 小平学・まちづくり研究所

代表者・役職名 氏名 山路 憲夫 所長

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

ほっとサロンこだいー引きこもりの居場所づくりと相談支援

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

小平市の総合的研究・調査を通して、小平学の構築、それにより同市でのまちづくりを進めることを目的に2016年末設立、14回にわたる研究会や市民公開シンポジウムを開催、2019年4月からは引きこもり支援の家族、引きこもりの本人を対象に学習会や居場所づくりに取り組む。会員数は10人。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

子どもから高齢者まで引きこもりを続ける人々は増え続けているといわれるが、その実態がわからないこと、当事者、家族からの相談が寄せられるケースも限られることなどから、その対策はどの地域もきわめて不十分である。フリースクールの取り組みは全国でまだまだ数少なく、小平市ではいまだ作られていない。中高年の引きこもりはさらに実態がわかりにくい。小平市で引きこもりの家族の会(準備会)が小平市社会福祉協議会の取り組みにより、発足したおかげで、その動きとも連動して、ニーズを発掘し、それを支援していくさまざまな取り組み、具体的には学習会や相談支援、居場所づくり、就労支援といった取り組みを個別の状況に応じながら進めていきたい。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

小平市での引きこもり本人や家族を対象に居場所をつくり、そこで専門職が対応、ゲームや懇談、個別の相談支援にも応じられる取り組みを本人の状況に応じて進めた。居場所にはさまざまなゲームや機織り機を据え、裂き織りの作業もできるようにした。来やすい、相談しやすい環境を作り上げるようにした。2021年8月必ず月1回からスタートした。2022年3月までに2021年度は8回開催。月一回開催を定例化したことで、参加を楽しみに毎回出席するリピーターも4~5人おり、口コミで新たに参加してくる方も増えつつある。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

スタートした第一回の8月21日の参加者4人、対応したスタッフは7人いずれも10代~30代の女性4人、自己紹介、趣味の話、ゲームをしたり、機織りの体験をしたり、最後にはみんなでウノをして終了。緊張しながらでも和やかな雰囲気だった。回を重ねるごとに硬かった雰囲気もほぐれ、話しやすい、相談しやすい雰囲気に。第七回(2月27日)は参加者が11人(うち女性7人)、スタッフ9人が対応。初参加した2人は最初緊張している様子だったが、次第に打ち解けた雰囲気になじみ、みんなで懇談したり、ゲームをしたりした。中には個別の面談を希望する参加者には、仕切りをつけた場所で面談した。総じて定例化することで、参加者もなじみ、さまざまな相談をしたり、参加者同士のつながりもできつつある。

### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

参加した引きこもり本人の方々には多様である。当初から見ると、明るく変わってきた人もいる。ゲームを自らが作り、それを持参する人も出てきた。その一方で、「ひまわりのおうち」以外は話をする機会が他にないのでという方もいる。特定のスタッフと話し続けたいという人もいる。その人たちをどうやって関わりつづけていくのか。なかなか回答は出ないが、じっくりと話を聞き、関わり続けることで、新たな変わり方が出てくるのかもしれない。月1回だけではなく今後は月に2、3回と回数を増やし、できるだけ常設化する居場所を作り、メニューも課外活動、見学も入れ込んで、関わり方を深め、本人の状況、希望に応じた生き方を手助けしていく。そのことで引きこもりの当事者、家族にとっての課題解決につながっていきたい。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

